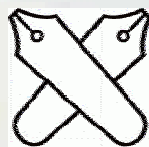


Action  
Oriented  
Plurilingual  
Language  
Learning  
Project

日本での複言語・複文化主義に基づく言語教育の可能性をさぐる  
- 行動中心複言語学習プロジェクトの試み -

---

金田一	真澄	KINDAICHI	Masumi
境	一三	SAKAI	Kazumi
倉館	健一	KURADATE	Kenichi



慶應義塾大学外国語教育研究センター  
Keio Research Center for Foreign Language Education

<http://www.flang.keio.ac.jp/>

# 目次

1. はじめに (倉館)
2. 慶應義塾大学外国語教育研究センターとは(金田一)
3. 問題意識と取り組み (境・倉館)
  - A) 一貫教育 (金田一)
  - B) 複言語・複文化 (境)
  - C) 自律・協調学習 (倉館)
4. 行動中心複言語学習プロジェクトの概要 (倉館)
  - I. 言語教育政策提言ユニット (金田一)
  - II. 中心複言語能力開発ユニット (境)
  - III. 自律学習環境整備ユニット (倉館)
5. まとめ (境・倉館)
6. ディスカッション



Action  
Oriented  
Plurilingual  
Language  
Learning  
Project

# はじめに



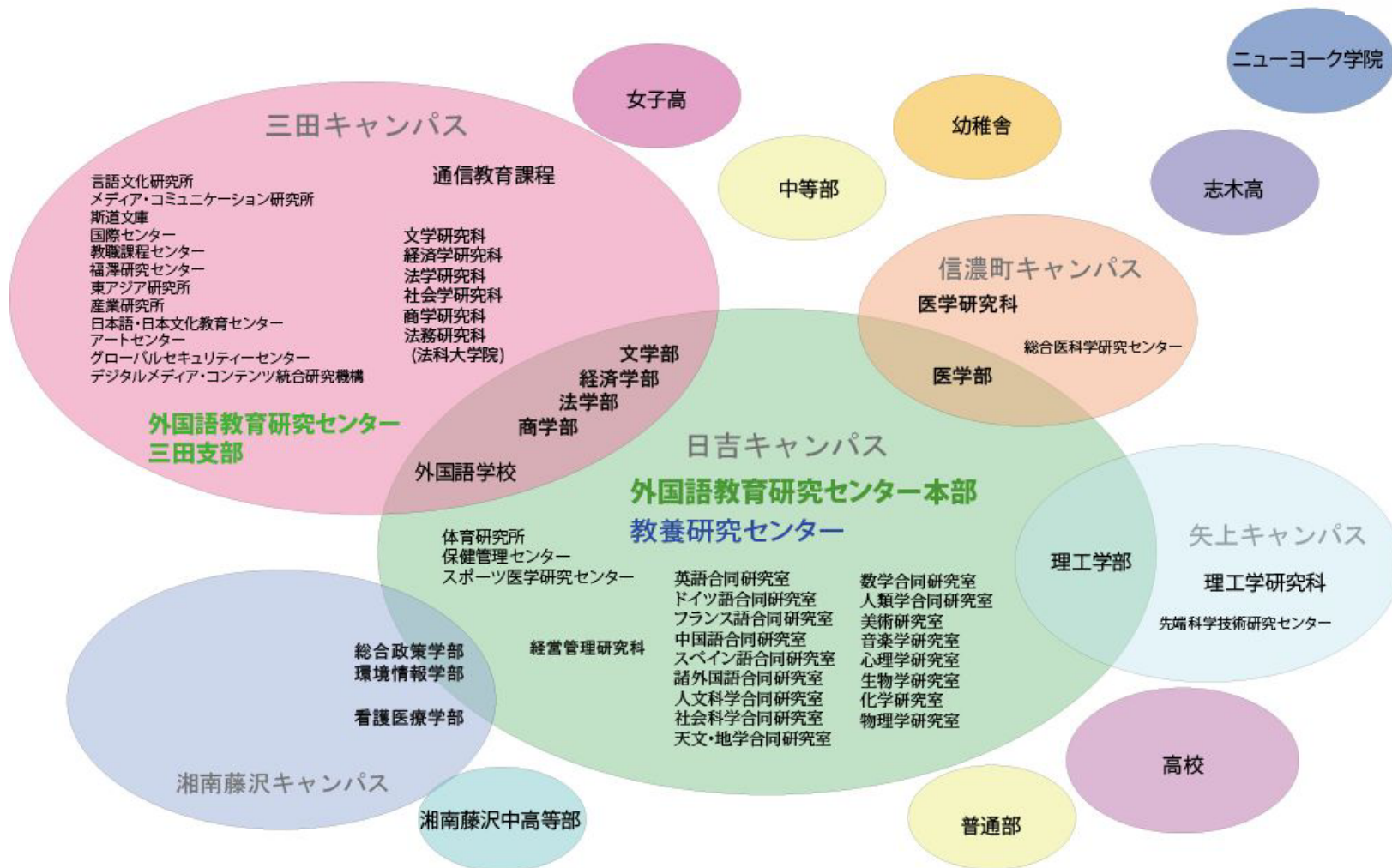
慶應義塾大学外国語教育研究センター  
Keio Research Center for Foreign Language Education on

<http://www.flang.keio.ac.jp/>

# 外国語教育研究センター

Action  
Oriented  
Plurilingual  
Language  
Learning  
Project

## 慶應義塾における外国語教育の総合研究拠点



# 外国語教育研究センターの使命



外国語教育研究センターは  
慶應義塾の外国語教育を、

- I 先導
- II 推進
- III 支援

する研究機関



# I 先導 Leading

外国語教育のあるべき姿を探究し、義塾に相応しいリベラルアーツと専門教育に対応できる先進的で魅力ある外国語教育を広く提言・実践する。

慶應義塾21世紀グランドデザインの基本方針

\*\*\*

慶應義塾の使命は、人を育み、学問と価値を創り、世界に貢献することを通して国際的に尊敬される学塾となるために、感動の湧き出る教育を実践し、新しい知的価値の創造と蓄積に精励し、新たな実業の世界を切り拓くことによって、21世紀社会を先導することにある。

この理念を基に、3つのキーワード、感動教育実践、知的価値創造、実業世界開拓を掲げ、以下のような6つの先導がグランドデザインの基本方針としてまとめた。

<http://www.pre.keio.ac.jp/mission/index.html>



文久2年(1862)  
幕府参勤としてヨーロッパ(蘭館の隣セント・ピーターズブルグにて  
(坂本資料センター蔵)



# II 推進 Promoting

- 全学部共通の外国語特設科目を開設し、単一学部では設置が難しい少人数授業や目的に特化した質の高い授業を置き、外国語教育の充実・向上に貢献する。
- 外国語教員の研究環境を整え、積極的に外部研究資金を導入するなど、研究推進機関としての役割を果たす。
- 教育研究を通して一貫教育校との連携を深め、一貫教育を踏まえた大所高所からの全塾的外国語教育を推進する。





### III 支援 Supporting

Action  
Oriented  
Plurilingual  
Language  
Learning  
Project

- 外国語に関する様々なイベントを通して、塾生に異文化世界に触れる機会や学ぶ機会を増やす。
- 教員の研究・教育についても同様に様々な支援活動を行う。
- 塾生が自律的に外国語を学ぶことのできるICT環境整備を積極的に支援する。
- 地域への支援としては、外に開かれた外国語学校をサポートする。
- 日吉独立大学院の言語教育コースの支援を行う。
- その他、他の関連組織と連携を図り、様々な研究・教育支援を行う。



慶應義塾大学外国語教育研究センター  
Keio Research Center for Foreign Language Education  
<http://www.flang.keio.ac.jp/>

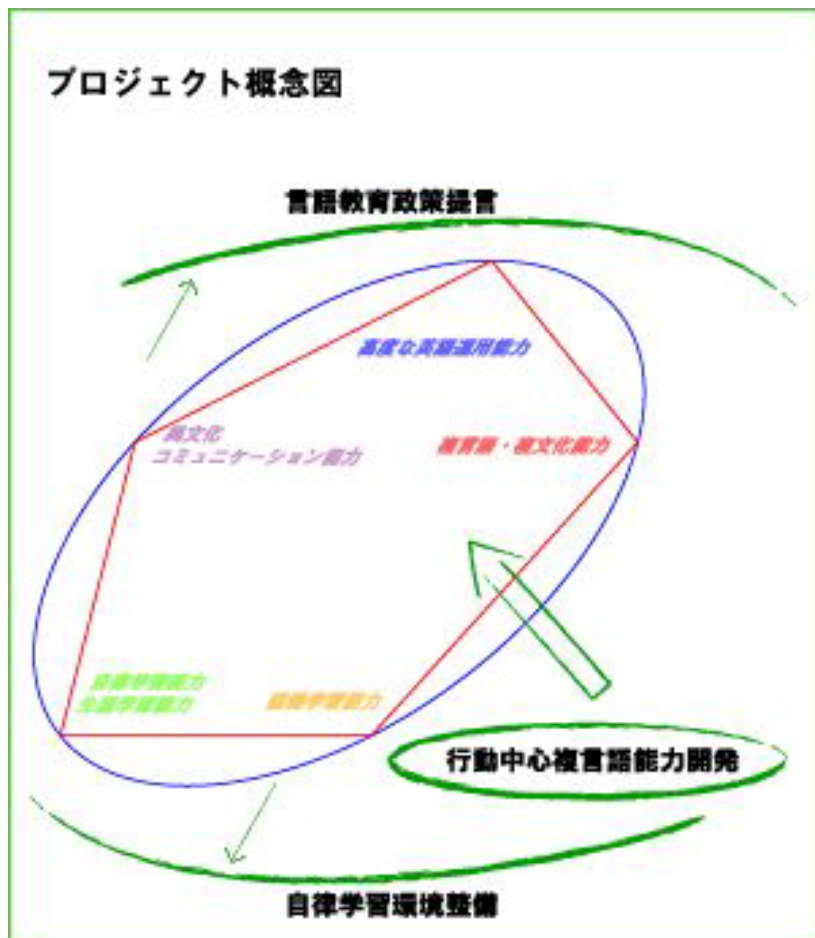
## 問題意識と取り組み

- A) 一貫教育
- B) 複言語能力開発
- C) 自律・協調学習



# 行動中心複言語学習プロジェクト 概要

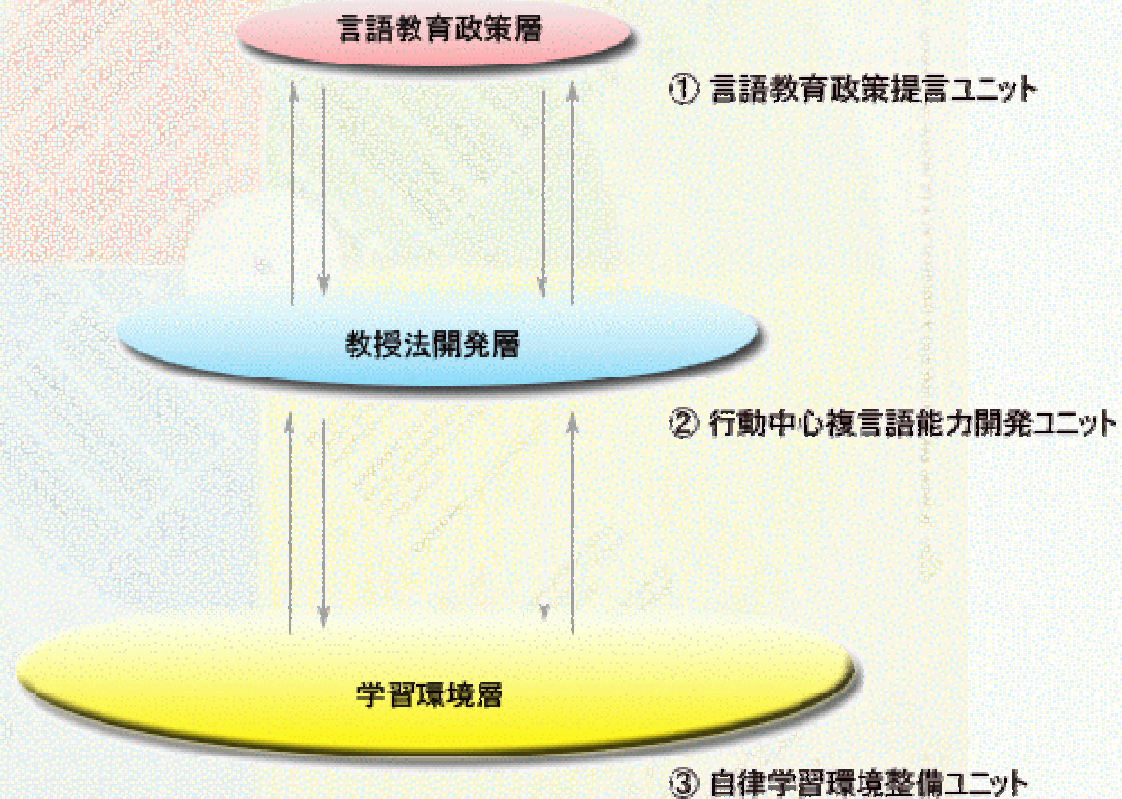
Action  
Oriented  
Plurilingual  
Language  
Learning  
Project



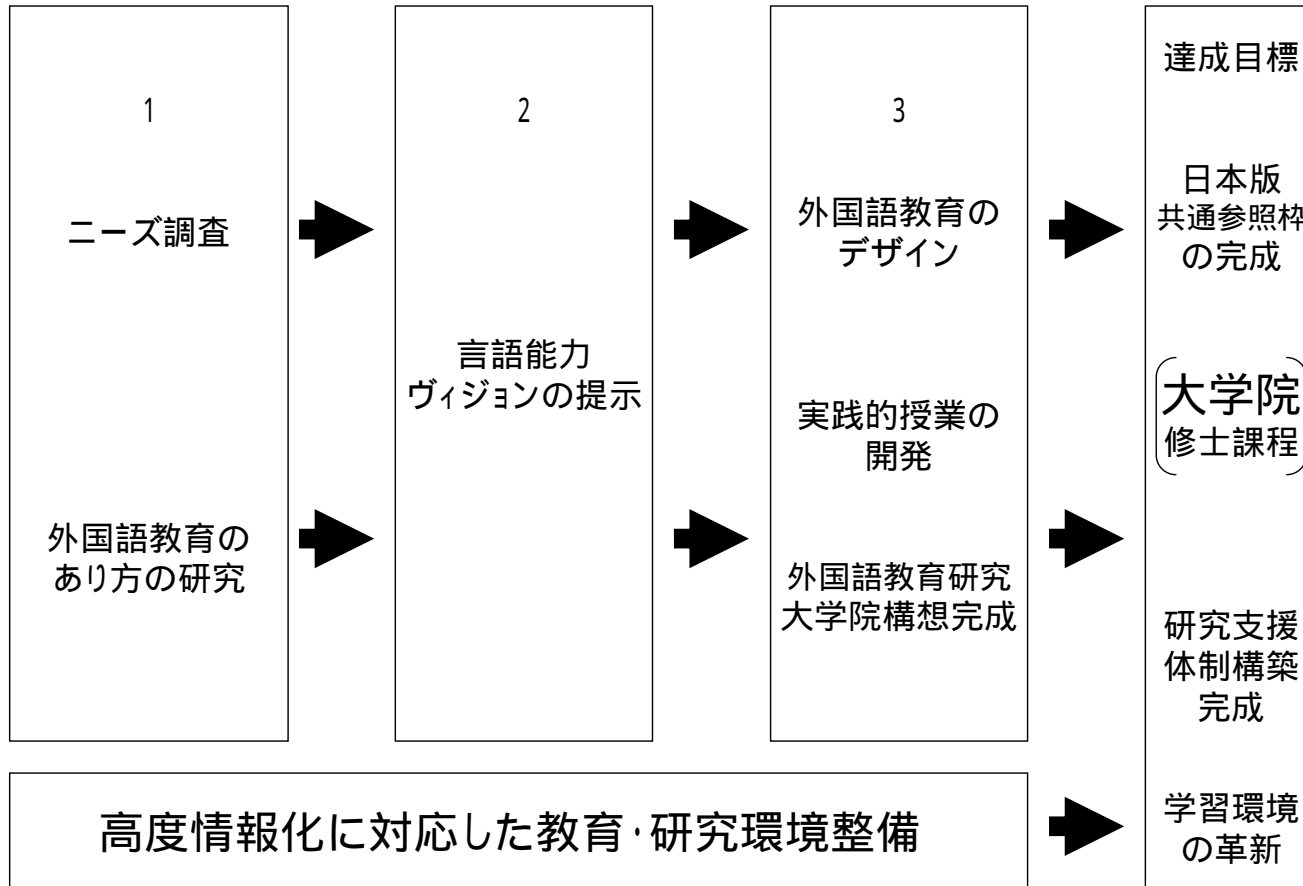
- I. 言語教育政策提言ユニット  
Language Education Policy Research Unit
- II. 行動中心複言語能力開発ユニット  
Action Oriented Plurilingual Competence  
Development Research Unit
- III. 自律学習環境整備ユニット  
Autonomous Learning Environment  
Research Unit



# 3層構造

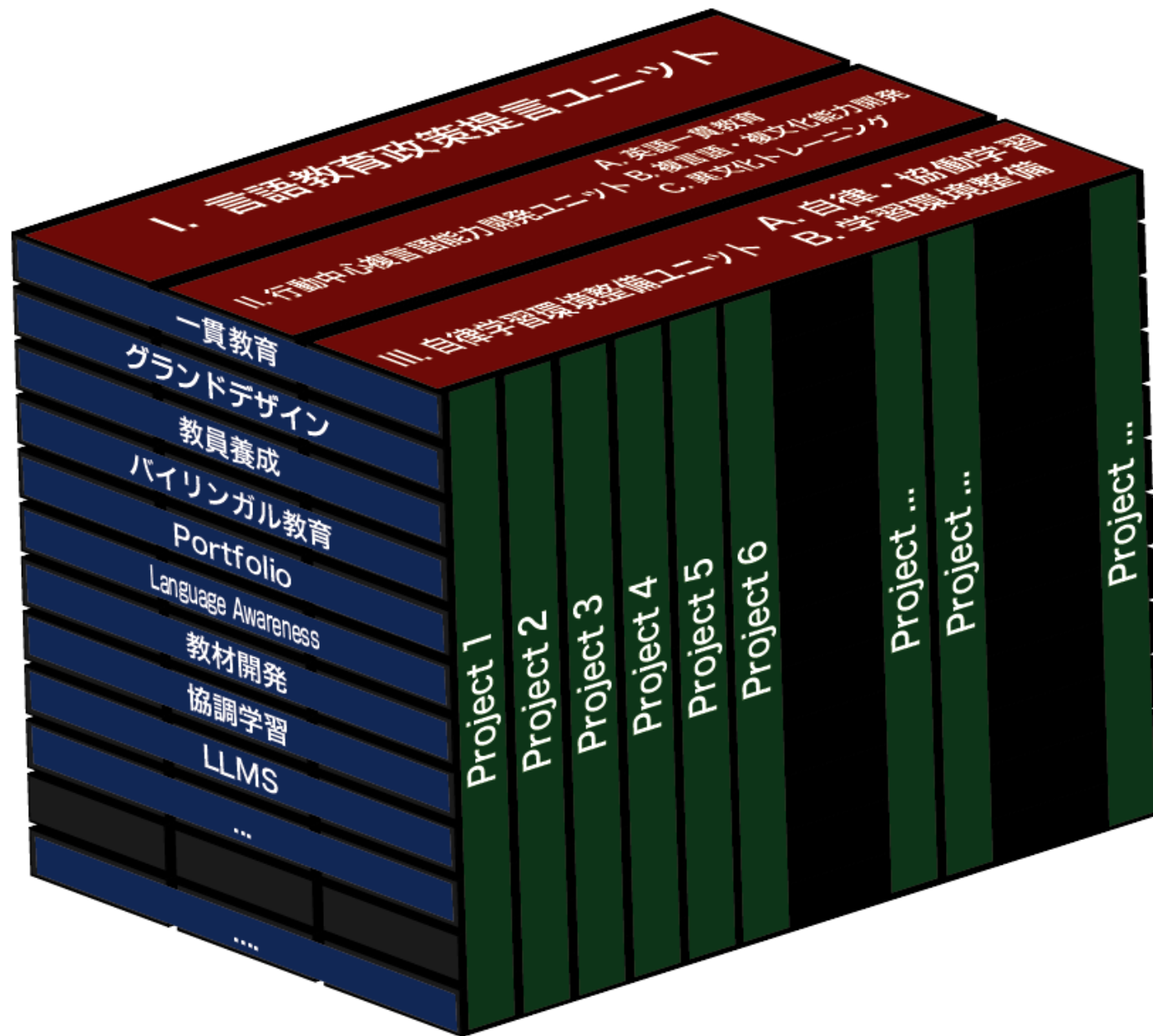


# プロセス



## AOPプロジェクト全体の研究プロセス





Action  
Oriented  
Plurilingual  
Language  
Learning  
Project



# まとめ

Action  
Oriented  
Plurilingual  
Language  
Learning  
Project



慶應義塾大学外国語教育研究センター  
Keio Research Center for Foreign Language Education  
<http://www.flang.keio.ac.jp/>

# ディスカッション

- a. 日本人と言語教育
- b. 行動中心主義と日本の教育環境
- c. ヨーロッパと東アジアの間の言語環境の隔たりとCECRの効能
- d. 複言語能力・複文化能力と初等・中等教育
- e. バイリンガル教育と日本人
- f. 複言語主義と教員養成
- g. 次世代学習環境と言語教育の最適化

